Ⅲ　平城宮跡等の調査概要

表14　2004年度　平城宮跡発掘調査部　発掘調査一覧

調査次数	調査地区	遺　跡	調査期間	面　積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
370次	6AAW-K	平城宮朝集殿院	2004.4.1～7.1	964㎡	奈良市佐紀町	林　正憲	学術調査	96
371次	6BKF-K·L	興福寺旧境内	2004.4.1～4.26	88㎡	奈良市登大路町	山本　崇	建物建設	108
372次	6AHH-H	平城京左京七条一坊十六坪	2004.6.7～7.23	704㎡	奈良市八条町	高橋克壽 次山　淳	建物建設	124
373次	6AFC-G	平城京左京一条二坊九坪	2004.7.5～7.9	27㎡	奈良市法華寺町	馬場　基	住宅建設	84
374次	6AGN-B·C	旧大乗院庭園	2004.7.26～10.29	680㎡	奈良市高畑町	大林　潤	史跡整備	110
375次	6AFF-D	平城京左京二条二坊十四坪	2004.7.26～8.20	120㎡	奈良市法華寺町	馬場　基	住宅建設	128
376次	6ABS-C·6ABT-T	平城宮中央区朝堂院	2004.10.5～12.24	1700㎡	奈良市佐紀町	清永洋平	学術調査	86
377次	6AFF-D·E	平城京左京二条二坊十四坪	2004.8.11～9.3	81㎡	奈良市法華寺町	中川あや	住宅建設	128
378次	6BSR-N·O	西隆寺	2004.10.1～10.15	93㎡	奈良市西大寺東町	豊島直博	建物建設	122
379次	6AFJ-E·F	平城京左京三条一坊十五坪	2004.10.18～10.29	96㎡	奈良市二条大路南	森川　実	建物建設	123
380次	6BSD-P	西大寺浄土院	2004.11.9～11.24	29㎡	奈良市西大寺小坊町	深澤芳樹	確認調査	84
381次	6ALR-F·G	平城宮東院地区西北部	2005.1.5～4.12	1050㎡	奈良市佐紀町	神野　恵	学術調査	104
382次	6BKF-I	興福寺旧境内	2005.11.24～12.3	63㎡	奈良市登大路町	豊島直博	庁舎建設	84
383次	6BKF-F	興福寺一乗院跡	2004.12.5～12.9	64㎡	奈良市登大路町	森川　実	庁舎建設	120
384次	6AGP-Q	平城京右京三条一坊十六坪	2005.1.5～1.14	28㎡	奈良市二条大路南	金井　健	住宅建設	84
385次	6ACO-P	平城宮西北地域	2005.1.14～1.17	4㎡	奈良市佐紀町	井上和人	住宅建設	84
386次	6AAO-B	平城宮内裏北外郭北辺	2005.1.19～2.9	49㎡	奈良市佐紀町	今井晃樹	道路拡張	84
387次	6ABA-E	平城宮内裏北外郭北辺	2005.3.1～3.3	9㎡	奈良市佐紀町	金井　健	住宅建設	84
388次	6AGF-H	平城京右京三条一坊八坪	2005.3.14～3.15	6㎡	奈良市二条大路南	今井晃樹	住宅建設	84

表15　2004年度　平城宮跡発掘調査部　小規模調査の概要

調査次数	遺　跡	調査の概要
373次	平城京左京一条二坊九坪	住宅建設に伴う事前の発掘調査。奈良時代の遺物を含む落ち込みなどを確認した。
380次	西大寺浄土院	西大寺旧境内にあたる浄土院は、周辺の水田・畑よりも高い土盛上にある。その位置から、土盛が西大寺薬師金堂を起源とする可能性が指摘されていたため、土盛の性格や基壇、掘込地業等、薬師金堂に関わる痕跡の有無を確かめるために調査をおこなった。調査区は土盛上を西区、土盛の東側下を東区とした。東区で奈良時代に属す可能性が高い柱穴、近世に属す流路を検出したが、西大寺薬師金堂に関わる遺構は認められなかった。
382次	興福寺旧境内	奈良合同庁舎の車庫増築に伴う事前調査。調査区の大半は庁舎建設時に掘削されていたため、遺物包含層が残存したのは調査区の両端のみであった。包含層からは多量の木炭とともに12世紀末頃の土器が多量に出土した。したがってこの包含層は12世紀末頃の火災の後、北側へ続く傾斜地を整地した際に形成されたと考えられる。この所見は調査地西側の一乗院旧境内（現奈良地方裁判所）の状況と一致し、火災後の整地がこの付近まで及んでいたことが明らかになった。
384次	平城京右京三条一坊十六坪	住宅建設に伴う事前調査。東西７m、南北４mの調査区を設定し、標高65.6m付近で奈良時代以前の遺構面を検出した。遺構面には細かい凹凸が多数あり、出土した土器片がいずれも強く摩滅していることから、河川（秋篠川）の氾濫によって侵食されていると考えられる。また幅の一定しない南北溝１条を検出し、この埋土から弥生時代の土器片が多数出土した。
385次	平城宮西北地域	住宅建設に伴う事前調査。濠ないし苑池の一部を確認した。堆積土には中世から近世にかけての瓦、陶磁器片を含む。
386次	平城宮内裏北外郭北辺	道路拡張に伴う事前調査。地山を掘り込む土坑２基、東西に並ぶ掘立柱の掘形６基、掘立柱の抜取穴６基を検出した。
387次	平城宮内裏北外郭北辺	住宅建設に伴う事前調査。東西２m、南北4.5mの調査区を設定し、奈良時代の整地土上、標高74.0m付近で遺構を検出した。検出した遺構は、瓦片を大量に含む東西溝とそれを切り込む東西溝、北から西へ曲がるL字形の溝などである。調査区南半は内裏北外郭の北面区画塀の想定位置にあたるため、これに相当する柱穴や築地の存在が期待されたが、今回の調査区内ではそれらを確認できなかった。
388次	平城京右京三条一坊八坪	住宅建設に伴う事前調査。建物位置に２×３mの調査区を設置し、地表から60cmほどで遺構面に達する。埋土に弥生時代の土器を含む土坑を１基検出した。

表16　2004年度　平城宮跡発掘調査部　現場班編成　※総担当者

	考古第一	考古第二	考古第三	遺　構	史　料
春		高橋克壽	※林　正憲	島田敏男・粟野　隆	山本　崇
夏	次山　淳	川越俊一	中川あや	※大林　潤	馬場　基
秋	豊島直博	森川　実	深澤芳樹	※清永洋平	渡辺晃宏
冬	井上和人	※神野　恵	今井晃樹	金井　健	

総括：部長　岡村道雄　　写真担当：牛嶋　茂、中村一郎